

木と人のサイエンス 10

自分で見つける楽しみ方

人類が置かれた環境の変遷



宮崎良文・池井晴美
現在ではコロナ禍という新たなストレス環境に置かれている。自然環境下に置かれた時期の方が圧倒的に長く、現在はコロナ禍という新たなストレス環境に置かれている。

この考え方に沿って現代社会を見れば、快適性は受動的から能動的に変わっていったといえるだろう。暑い寒いといった基本的欲求が求められる快適さ自然である森林がある

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉どおり、季節の変わり目を迎えている。考えてみれば、暑い、寒いも昔に比べ、随分と制御できるようになっている。暑ければクーラー、寒ければ暖房と、今や室内環境は快適に調整できる。さらに、防音・防臭も豊富で、寒暖に慣れる機会も減った。半面、現代はストレスに満ちている。コロナ禍で心身のバランスを崩すといった報道も度々耳にするようになった。これまでの連載で、木材や森林、ひいては自然がストレスを和らげることを紹介してきた。さらに、日常生活のなかでうまくリラックスすることは、体調管理や健康維持の面で大切なことだといえる。前回は前回も指摘したとおりだ。木材や自然とはどのように付き合えば、より効果的なのだろうか？

能動的に快適を求める時代に

「快適」とは何か？
「快適」を辞書で引けば、多くは「具合がよくて」「ころよみ」などと説明されている。我々も不快でなく心地良い状態を「快適」といおう。つまり、リラックスしている状態だといえるだろう。

宮崎良文氏(千葉大学環境健康フィールド科学センター)と池井晴美氏(同特任助教)は、受動的快適性の個人差が小さく、一方、能動的快適性は個人差が大きく、プラスアルファで獲得するものもある。連載で紹介した森林浴や木材セラピーなどは能動的快適性に当たるといえる。

この考え方に沿って現代社会を見れば、快適性は受動的から能動的に変わっていったといえるだろう。暑い寒いといった基本的欲求が求められる快適さ自然である森林がある



自然は人の相性が良い。科学的に証明されている。自然環境をうまく活用して快適な暮らしを実現しよう。(高崎氏)

性環境が整っている。多くの個人差はあるにしても、外気温30度は暑い水点下は寒い。このように考えれば、現代社会における快適性は能動的に獲得するものになっている。自ら考えて動くことに、快適だと感じることに、自分と他人の個人差は当然大きくなる。

この前提に立って、高崎氏は「人に教えるのではなく、自分で選択して、木と人の快適な関係を様々な提案をしていくのではないだろうか。」(同)

木と人は相性が良い。科学的に裏付けられている事実を追いかけて、木材業界に身を置く我々、木と人の快適な関係を様々な提案をしていくのではないだろうか。(おわり)

次回から

「木材利用の最新技術講座」10回にわたって隔週連載してきました。「木と人のサイエンス」は本号で終了します。感想はいかがでしたでしょうか。木は人に優しく、人は木を和ませてくれる。心と木に関連する人々の日常ですが、これらの言葉を科学的根拠を基に説得力ある形で理解していただくことを今回のシリーズで目指します。

次回「10月8日からは新シリーズ「木材利用の最新技術講座」(隔週、第2、第4金曜日付6面)が始まります。つくばの森林総合研究所や日立の同研究所材木育種センターに勤務する研究者らにより、木材利用に向けた最新の研究を紹介していきます。

国産材分野では今日の木課題となっている大径木技術の活用や2x4材生産への効率化、大断面製材の乾燥問題、早生樹開発など広範囲にわたって

「木材利用の最新技術講座」10回にわたって隔週連載してきました。「木と人のサイエンス」は本号で終了します。感想はいかがでしたでしょうか。木は人に優しく、人は木を和ませてくれる。心と木に関連する人々の日常ですが、これらの言葉を科学的根拠を基に説得力ある形で理解していただくことを今回のシリーズで目指します。

次回「10月8日からは新シリーズ「木材利用の最新技術講座」(隔週、第2、第4金曜日付6面)が始まります。つくばの森林総合研究所や日立の同研究所材木育種センターに勤務する研究者らにより、木材利用に向けた最新の研究を紹介していきます。

国産材分野では今日の木課題となっている大径木技術の活用や2x4材生産への効率化、大断面製材の乾燥問題、早生樹開発など広範囲にわたって

造建築に魅力を感じたらどうするか。何と発想に乏しい例えだろう！私が好きなのは……と思う読者は多いに違いない。

十人十色というとおり、人の好みは千差万別だ。それなのに、快適性に「効果」を押し付けられても困惑させるを得ない。

連載初回で「木と人は本来に相性が良いのか？」と疑問を挙げ、連載回を追うたびに、木、ひいては自然と人の相性の良さを科学的に証明してきた。快適性を考えるうえで「木と人は相性が良い」という前提は、科学的に明らかになっている。

この前提に立って、高崎氏は「人に教えるのではなく、自分で選択して、木と人の快適な関係を様々な提案をしていくのではないだろうか。」(同)

木と人は相性が良い。科学的に裏付けられている事実を追いかけて、木材業界に身を置く我々、木と人の快適な関係を様々な提案をしていくのではないだろうか。(おわり)

安全維持がキーポイント
コンセプトデザイン賞受賞
サンゲツ
サンゲツ(名古屋)市、安田正社長は、安全機能付きロールスクリーン「CSロールスクリーン」が、キッズデザイン協議会が主催する「第15回キッズデザイン賞」(子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門)を受賞した。

CSロールスクリーンの一部は操作コードに引っかけ、一定角度に引くと、操作部が本体から外れるチャイルドセーフティ機構を持たせており、機軸の事故を未然に防ぐことが可能となる。また、遠隔地でもその場から音声が指示を出すことができるスピーカー内蔵モデルのほか、長時間の利用が可能にする使い放題プランのリリースも検討している。

神奈川県南葉山で「コトセトモ」の開発
コンセプトモデルの完成を目指している。
同力メラの魅力を一つが、設置状況に応じて機種を選択できる豊富な品ぞろえだ。架設パイプなどに取り付ける「スタンダードタイプ」、センサーライトを備えた「プロタイプ」、置き型で定点観測に優れた「ハンディタイプ」、広角に対応した「ハンディタイプ」、屋内用の「インドアタイプ」、専用アプリを使わずにブラウザで映像を見ることが出来る「ブラウザタイプ」の6種類をそろえている。

関東地域ではカメラ設置サービス(有料)を受け付けるなど、監視カメラの設置に不慣れなユーザーをサポートも行う。

同社は、ユーザーの細かなニーズを汲み取りながら製品の改良を進めていく考え。最近では同力メラと合わせ使用できるソーラーバッテリーの取り扱いは始めた。電源がない状況下での作業に役立つため、山の中で土木工事をする際や、建設作業中また電気が通っていない現場などでも同力メラを使用することが可能となる。また、遠隔地でもその場から音声が指示を出すことができるスピーカー内蔵モデルのほか、長時間の利用が可能にする使い放題プランのリリースも検討している。

南葉山で「KOTO」
コトセトモビル建設
アーキテクトンティ
アーキセプトンティ
東京都、室井洋司社長は、都市型の小型戸建て住宅ブランド「KOTO(キト)」を自社事業ブランドとして開始した。

「容積を地球と共有し、森や多様な生命体を都市へ流通する」をコンセプトに、容積率の25%を非課税建築容積と位置付け、小型の建築と木やバイオマスを併設する環境共生価値を思想基盤にする住宅ブランド。

「容積を地球と共有し、森や多様な生命体を都市へ流通する」をコンセプトに、容積率の25%を非課税建築容積と位置付け、小型の建築と木やバイオマス